

# 植民地朝鮮における 親日芸術家の歴史記述と 親日派研究の展望： 金殷鎬を例に

尾崎圭蔵

INAF研究員、延世大学国際学大学院コリアン・スタディーズ専攻修士課程

# 目次

1. はじめに
2. メモリー・ムーブメント：韓国における親日派の問題化
3. 親日芸術家としての金殷鎬
4. 韓国人画家としての金殷鎬
5. 親日芸術家/親日派の境界線
6. ポストコロニアル視点と親日芸術家/親日派研究の展望
7. おわりに



# 1. はじめに

**親日派 (친일파)**: 積極的かつ連続的に日本帝国主義の植民地政策を支持・支援した朝鮮人

→ 芸術分野: **親日芸術家 (친일 미술가)**

本研究の対象: **以堂 金殷鎬 (이당 김은호)**

(教育者としての重要性 ⇄ 解放後の「再」評価)

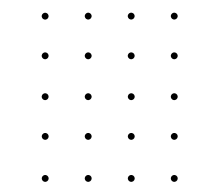
本研究の目的:

- 金殷鎬の歴史的記述を分析し、親日芸術家/親日派の「境界線」を検証
- 親日芸術家/親日派の代替的分析方法の模索

研究方法:

- 一次資料分析 (辞書、回顧録) 等



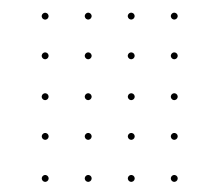


# Thesis Statement

「親日芸術家」と言われる人々は、同じ一人の芸術家であっても、その自己認識とは無関係に、韓国を裏切った「親日芸術家」として位置づけられることもあれば、韓国美術史において重要な役割を果たした「韓国人芸術家」として位置づけられることもある。これはひいて、「親日芸術家」というカテゴリーが、対象に内在する性質ではなく、**他者によって付与されたナショナリズム的な歴史的言説に基づく社会的構築物**であることを示している。

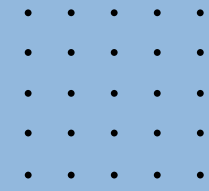
社会的構築物としての親日芸術家/親日派とされる人物たちは、**ポストコロニアル的視点の取り入れによるトランスナショナルで時期横断的な個人史・植民地史**によってより理解される。



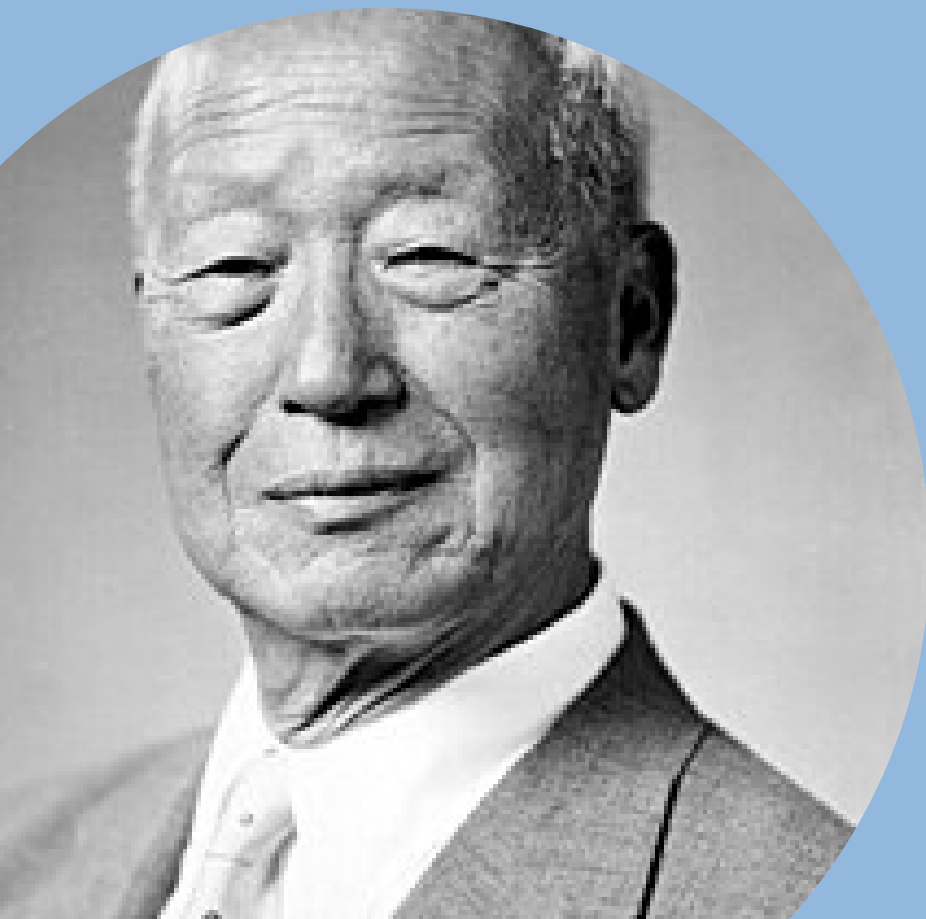


## 2. メモリー・ムーブメント： 韓国における親日派の問題化





# 解放後と 親日派



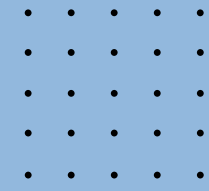
## 1 ポスト植民地の課題

「親日派」の定義の難しさ ⇄ 定義の必要性  
生きるために「**日常的な協力**」を余儀なくされた (Kang, 2024, p. 150)  
→ 朝鮮・朝鮮人再建のための重要課題に

## 2 不完全な帰結

解放後の朝鮮：  
親日派の継続的政治的影響力  
+ 不安定化を恐れるアメリカ (De Ceuster, 2001, p. 211)  
→ 朝鮮人自らが解決する問題

**政権と親日派の癒着関係** (Robinson, 2007, p. 112):  
李承晩政権 ⇄ 韓国民主党 (親日派地主・実業家)  
→ 未解決のまま軍事独裁政権へ



# 親日派の「問題化」



## 3 民主化と親日派の「問題化」

民主化以前：反民族行為特別調査委員会 (반민족행위자특별조사위원회) (1948)

林鍾国 (임종국) 親日文学論 (친일문학론) (1966)

\*部分的成果のみ

→1980年代後半～90年代前半：林主導で韓国語による文献急増 (Kim, 2004, p. 99)

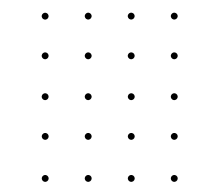
## 4 親日人名辞典 (친일인명사전) (2009)

「メモリー・ムーブメント」←林の死により広がる (Kim & Fine, 2013, p. 38)

市民・メディア・政治家の支持→2009年に初出版

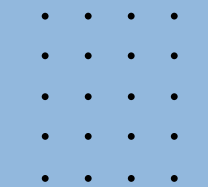
⇔親日派・家族・保守層からの批判 (Kim & Fine, 2013, pp. 39-40)





### 3. 親日芸術家としての金殷鎬





# 親日芸術家

芸術分野における親日的活動:

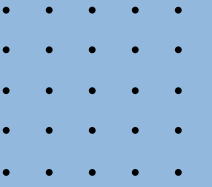
「日本植民地時代に設立された組織や個々の芸術家によって、国民精神や信念を裏切り、『内鮮一体』や『皇民化』といった侵略政策を遂行することを目的として行われた、芸術作品の制作やその他の活動」(김, 2006, p. 203)

→ **親日芸術家**: こうした活動を 積極的・継続的に行なった人物  
(김, 2006, p. 203)

期間:

- 第二次日中戦争 (1937)から (김, 2006, p. 204)
- 京城書画美術院 (경성서화미술원)設立 (1911)から (조, 2009, p. 179)

# 金殷鎬



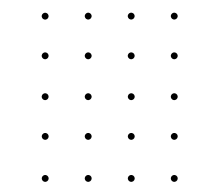
## 1 植民地前期：親日派芸術制作

- 京城書画美術院 (1912-1917)
- 東京美術学校 (1925-1928)
- 朝鮮美術展覧会 (조선미술전람회) 入賞(1922、1924、1928)
- 帝国美術院展覧会入選 (1927)

## 2 植民地後期：教育者・有名画家として

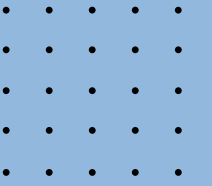
- 教育者としての役割
- 朝鮮美術展覧会審査委員として「数多くの親日芸術家を輩出」(김, 2006, p. 209)
- 日本画画法の取り入れ (倭色 왜색)
- 金釵奉納図 (금차봉납도) (1937) ← 愛国金釵会の逸話





## 4. 韓国人画家としての金殷鎬



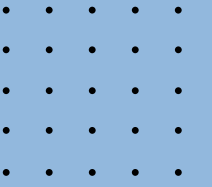


# 韓国芸術史

## 植民地期の芸術制作システム

- 日本を通じた近代的（西洋的）技法の紹介
- 「美術」を学ぶための唯一の手段としての「内地」留学  
(佐藤, 2008, p. 37)
- 朝鮮美術展覧会：画家としてのデビュー・作品の紹介のための通り門 (Horlyck, 2017, p. 33)
- ⇄ 「日本的」な作品でないと入賞困難 (喜多, 2008, p. 44)

# 金殷鎬



## 韓国芸術の近代化に貢献した「韓国芸術家」

「朝鮮王朝の宮廷肖像画の伝統に従い、筆と墨を用いて人物の輪郭を描き、一方で柔らかい墨と細筆を用いて顔の表情を丹念に陰影を付けた。これは当時、写実的な表現のために考案された新しい技法である」 (Lowell, 2022, p. 36)

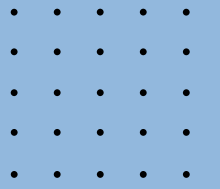
→ 伝統の継承と近代の写実的技法のハイブリッド性  
(植民地期・解放後の主流)

「もちろん以堂先生に関する評価が肯定的な面のみあるものではありませんが、本展覧会を通して一人の作家の絵画世界を偏見なく公正に眺めることができる契機を提供できればと思います」

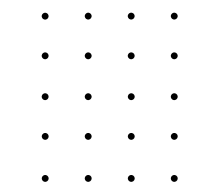
류춘근 (2003年8月当時仁川市立博物館館長)  
(인천광역시립박물관, 2003, p. 5)



# 金殷鎬に関する歴史記述の二重性 (比較)



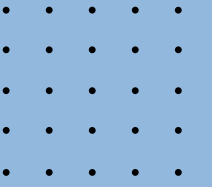
	親日派史 親日芸術史	韓国芸術史
全体的評価	否定的 (倭色画家・教育者)	肯定的 (?) (芸術の近代化への貢献)
評価基準	親日的活動	芸術史への貢献 美学
評価時期	植民地期 (*論者によって異なる)	植民地期 (全般)



## 5. 親日芸術家/親日派の境界線



# 批判的議論



## 「倭色」芸術家？ 韓国芸術家？

### 他者化

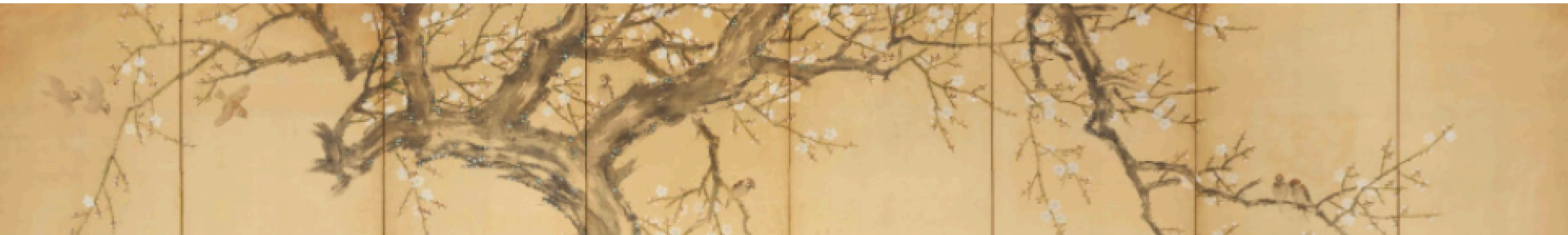
- 歴史のエクスクルーシブ/インクルーシブな態度（二重性）
- 他者化された物語、画家自身の主体性の排除

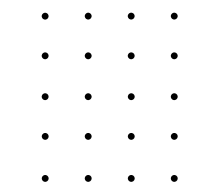
### ナショナリズム

- ナショナリズムによって「美術史学における主体としての芸術家の位置づけ」が定義される (Park, 2024, p. 63)
- ナショナリズム的歴史記述とトランスナショナルな文脈の排除

### 【親日芸術家/親日派の境界線】

植民地期における活動に対する  
他者による「審判」を通じた  
「韓国人」メンバーシップの決定

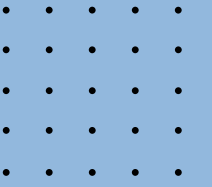




## 6. ポストコロニアル視点と 親日芸術家/親日派研究の展望



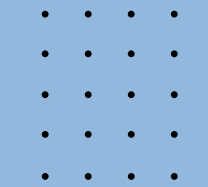
# 歴史記述における ポスト植民地期以降の文脈の欠如



	親日派史 親日芸術史	韓国芸術史
全体的評価	否定的 (倭色画家・教育者)	肯定的 (?) (芸術の近代化への貢献)
評価基準	親日的活動	芸術史への貢献 美学
評価時期	植民地期 (*論者によって異なる)	植民地期 (全般)



# 主体性：金殷鎬の「弁明」



## 「朝鮮人/韓国人」へのメンバーシップ主張

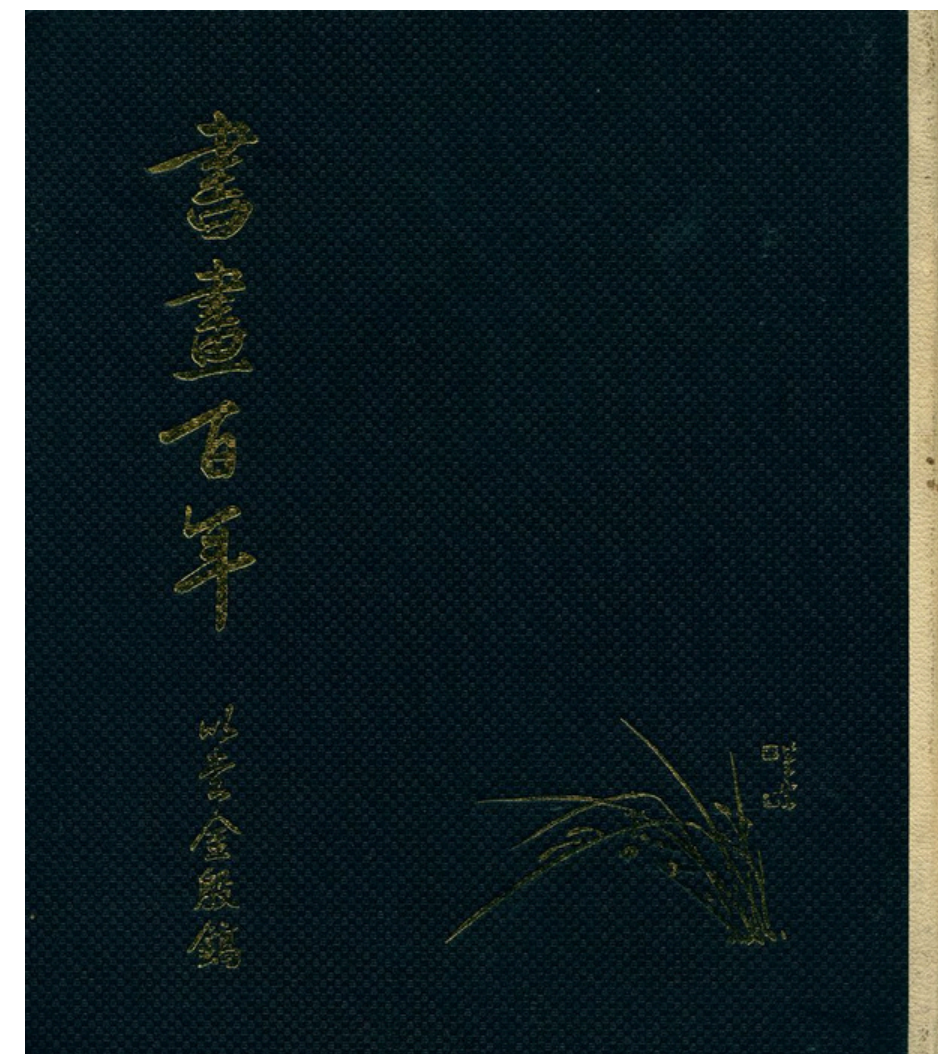
解放後の親日派たち：「朝鮮人/韓国人という想像の共同体の構成員」に属することを主張  
(Kang, 2024, p. 153)

→ 親日派史/親日芸術史：却下 ⇄ 韓国芸術史：採択

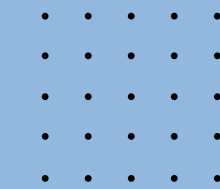
## 『書画百年』 (김, 1977)

- 三・一運動への参加と西大門刑務所服役 (pp. 87-89)
- 朝鮮美術展覧会への参加の「不可避性」 (p. 182)
- 金釵奉納図制作の「強制性」・後悔の念 (p. 191)

金殷鎬の「弁明」：「愛国的」過去と植民地期の構造的問題の指摘



# 解放後の文化・芸術ナショナリズム



## 「倭色」排除と民族美術の建設 (稲葉, 2018)

- 解放後韓国美術界の目標: 「倭色」排除・民族美術の建設 (p. 190)
- ⇨現実: 日本色の精算・民族美術建設に関する議論活発化未達成
- 重要議論: 植民地時代の残滓精算 (特に東洋画) (p. 191)
  
- 親日芸術家 ← 美術団体参加不可 (金殷鎬含む) (p. 191)
- 大韓民国美術展覧会 (1949年設立) ← 朝鮮美術展覧会の規約を基に (pp. 191-192) (\*金殷鎬: 1949年初出品、1952年審査委員)

大韓民國 美術展覧會

期間 11月15日 30日間  
12月14日

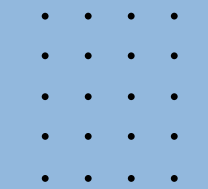


次 1 回

於國立美術館  
文 教 部

# 解放後の文化・芸術ナショナリズム

(cont.)



## 朴正熙政権下の文化政策・標準影幀・金殷鎬

- 反共・経済開発・軍事政権の正当性確保のための**文化政策** (Park, 2010, p. 71)
- **文化賞と金殷鎬の受賞**
  - 1962年 文化勳章大統領章 (문화훈장대통령장)
  - 1965年 三・一文化賞 芸術部門 本賞 (3·1문화상 예술부문 본상)
  - 1968年 大韓民国 芸術院賞 (대한민국 예술원상)
- 民族文化高揚による先賢崇拜→**銅像・影幀の管理** (조, 2016, p. 238)
- 金殷鎬による**標準影幀 (標準肖像画)** (2016年12月時点)
  - 李珣 (울곡 이이、5千ウォン紙幣)
  - 申師任堂 (신사임당、5万ウォン紙幣)



ポスト植民地期における民族文化・芸術の建設模索と  
芸術家たちの「参加」



# 今後の 親日芸術家/ 親日派研究



植民地期：

他者化・ナショナリズムに根ざした二重の歴史記述

ポスト植民地期：

芸術家たちによる植民地期の主体的回顧  
ナショナリズム的議論の継続と芸術家たちの「参加」



## 【親日芸術家/親日派研究の代替的視角】

- ナショナリスト的ナラティブの脱構築化
- 人物研究における他者化の回避（＝本人の視点の取り入れ）
- 植民地期の閉鎖的分析の見直し（＝ポストコロニアル視点の取り入れ）
- （ポスト）植民地期における構造的問題の更なる分析



ミクロでトランスナショナルな個人史とマクロで時期横断的な植民地研究に根ざした親日芸術家/親日派研究

# 7. おわりに

- 民主化後の親日芸術家/親日派の「メモリー・ムーブメント」
- 金殷鎬を取り巻く二重の歴史記述
- 歴史記述における他者化・ナショナリズム
- ポストコロニアルな視点（主体性と文化・芸術ナショナリズム）
- 親日芸術家/親日派研究の代替的視角
- 研究課題



# 参考文献

## 英文文献

- De Ceuster, k. (2001). The Nation exorcised: The historiography of collaboration in South Korea. *Korean Studies*, 25(2), 207-242. <https://www.jstor.org/stable/23718903?seq=1>
- Horlyck, C. (2017). *Korean art: From the 19<sup>th</sup> century to the present*. Reaktion Books.
- Kang, J. (2024). Anti-Japanism as a strategy for reshaping national identity in post-liberation South Korean fictions (1945–1948). *International Journal of Asian Studies*, 21, 146-161. DOI: 10.1017/S1479591423000244
- Kim, J. C., & Fine, G. A. (2013). Collaborators and national memory: The creation of the encyclopedia of pro-Japanese collaborators in Korea. *Memory Studies*, 6(2), 130-145. <https://doi.org/10.1177/1750698012473685>
- Kim, K. H. (2004). Reflections on the Problems of Colonial Modernity and “Collaboration” in Modern Korean History. *Journal of International and Area Studies*, 11(3), 95–111. <http://www.jstor.org/stable/43107105>
- Kim, M. (2007). The aesthetics of total mobilisation in the visual culture of late colonial Korea. *Totalitarian Movements and Political Religions*, 8(3–4), 483–502. <https://doi.org/10.1080/14690760701571130>
- Kim, M. (2021). Staging images of everyday life in late colonial Korea: Colonial visuality and the proliferation of amateur photography. *Asian Studies Review*, 45(3), 381–399. <https://doi.org/10.1080/10357823.2021.1899134>
- Kim, Y. (2005). *Modern and Contemporary Art in Korea: Tradition, modernity, and identity*. Hollym.
- Lowell, P. (2022). The Modern Encounter. In Moon, V. (Eds.), *The Space Between: The Modern in Korean Art* (pp. 29–49). Los Angeles County Museum of Art; DelMonico Books; D.A.P. New York.
- Park, S. (2010). The paradox of postcolonial Korean nationalism: State-sponsored cultural policy in South Korea, 1965–present. *The Journal of Korean Studies*, 15(1), 67–93. <https://www.jstor.org/stable/41490258>
- Park, S. (2024). Lee Ufan’s ambivalent otherness and art historiography. *International Journal of Asian Studies*, 21(1), 63–76. DOI:10.1017/S1479591423000426
- Robinson, M. E. (2007). *Twentieth-century odyssey: A short history*. University of Hawaii Press.

## 和文文献

- 稲葉 (藤村) 真以 (2018). 韓国画の変遷: 葛藤と模索の軌跡をめぐって. *美術研究*, 426, 189-206.
- 喜多恵美子 (2008). 朝鮮美術展覧会と朝鮮における「美術」受容. *大谷学報*, 88, 30-54.
- 佐藤由美 (2008). 東京美術学校の朝鮮留学生. *東アジア研究*, 49, 37-51.

## 韓文文献

- 조은정. (2009). 친일 미술, 이미지를 통해 민중을 조종한 부역 미술. *내일을 여는 역사* 2009년 겨울호, 37, 178-201.
- 조은정. (2016). 표준영정에 대한 연구: 공동체 의식과 감정통합의 균일화 과정. *로컬리티 인문학*, 15, 231-267. <http://dx.doi.org/10.15299/tjl.2016.4.15.231>
- 인천광역시립박물관. (2003). 이당 김은호의 삶과 예술: 인천광역시립박물관 특별전. 인천광역시립박물관.
- 김은호 (1977). *서화백년*. 中央日報社.
- 김현화. (2016). 박정희 정부의 문예중흥정책과 현대미술. *美術史論壇*, 42, 131-159. <http://dx.doi.org/10.14380/AHF.2016.42.131>
- 김민수. (2006). 친일 미술의 상처와 문학적 차유. *내일을 여는 역사* 2006년 겨울호, 26, 201-213.
- 민족문제연구소. (2009). 김은호 金殷鎬 鶴山殷鎬 1892-1979. In *친일인명사전* (1<sup>st</sup> ed., pp. 542-545). 민족문제연구소.

ご清聴ありがとうございました

Email: [ozakikeizookkyoto@gmail.com](mailto:ozakikeizookkyoto@gmail.com)

